

白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会 現地検討会 ※ 28.7.28 午前中実施予定

1 現地概要

自然再生活動拠点における平成27年度列状間伐実施状況について

- ・場所：西目屋村鬼川辺国有林180い5林小班
- ・機能類型：森林空間利用タイプ
- ・林種：単層林 ・主要樹種：スギ ・林齢：50年生
- ・混交割合：100% ・面積：14.99 ha ・伐採率：33%
- ・施業履歴：H11間伐

2 列設定の考え方

活動拠点となる180い5林小班の間伐は列状に5m伐採、10m残しで実行済。この伐採列の中に広葉樹侵入等に関するモニタリング調査箇所を列状に8本設定し、設定方法による稚樹の発生状況に差違があるかを検証。

- ・A区域①～④：伐採列を集材路に対し直角に設定。
※通常の列状間伐の形態
- ・B区域⑤～⑥：伐採列を集材路に対し直角かつ広葉樹の区域に接するまで設定。※広葉樹の区域から種子の飛来を期待
- ・C区域⑦～⑧：伐採列を南北方向に設定
※日照による稚樹の発生状況を確認

3 植生調査

モニタリング調査の列8本に2箇所、隣の残し列に1箇所植生プロットを設定。※8×3=24プロット。植生調査は今後実施。※樹種・高さ

- 資料
- ・出席者名簿
 - ・施業実施計画図
 - ・基本図かん入図
 - ・自然再生の取組検討案 ※白神森林生態系保全センターから提案
(自然再生活動拠点における伐採後の広葉樹侵入等について)

協議会委員等出席者名簿

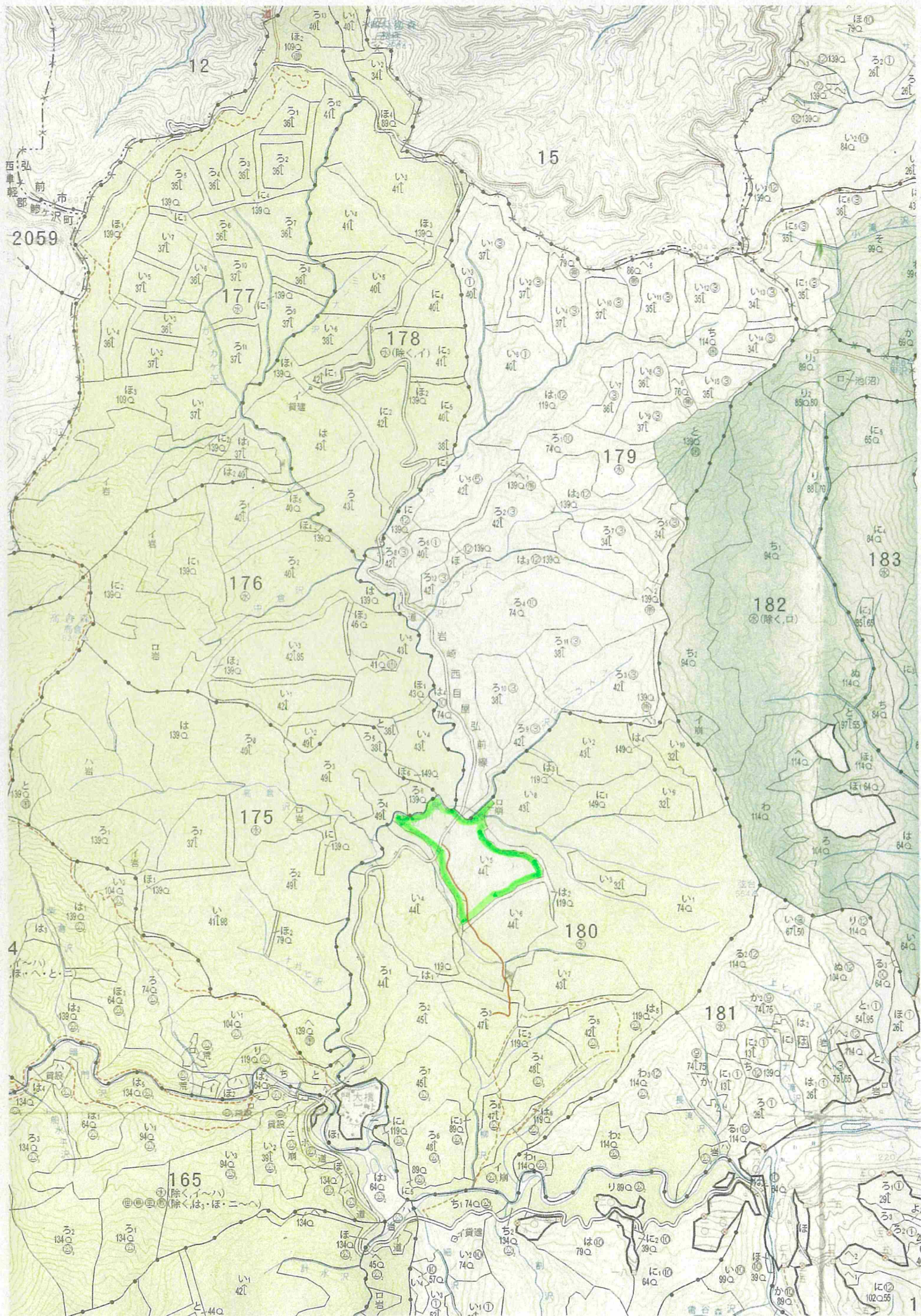
(五十音順、敬称略)

氏名	職業等
川嶋 孝夫	三陸森の会・弘南森の会事務局長 ※代理出席
相馬 光春	青森県森林組合連合会（白神山地ビジターセンター館長）
須々田 秀美	日本山岳会青森支部会報委員長 ※代理出席
田村 早苗	青森県林業会議参与
永井 雄人	白神山地を守る会代表理事
成田 鶴美	青森県西北地域県民局地域農林水産部林業振興課長
新岡 義重	津軽人文・自然科学研究会会長
西田 秀一	白神倶楽部会長
吉川 隆	赤石川を守る会副会長 ※代理出席
米谷 定	深浦町観光課長 ※代理出席

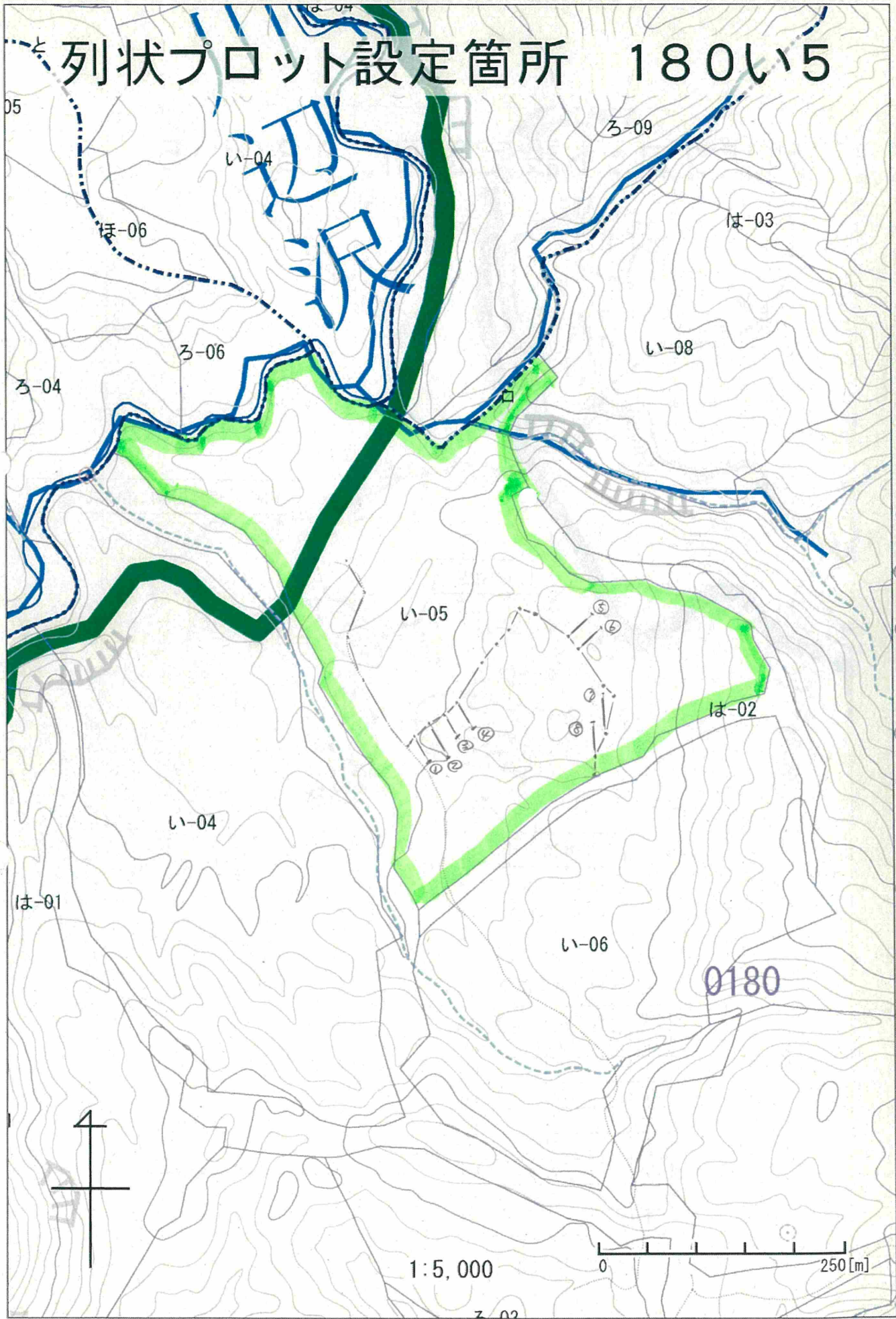
事務局出席者名簿

氏名	役職名
松葉瀬 裕之	東北森林管理局森林整備部長
仙北谷 彰	東北森林管理局技術普及課長
寺田 治男	東北森林管理局企画官（自然再生）
石田 和彦	津軽白神森林生態系保全センター所長
森川 寛	津軽白神森林生態系保全センター生態系管理指導官 （津軽森林管理署駐在）
吉川 浩人	津軽白神森林生態系保全センター自然再生指導官
有本 実	津軽白神森林生態系保全センター 専門官
久保 翔太郎	津軽白神森林生態系保全センター 一般職員
川村 幸春	津軽白神森林生態系保全センター 行政専門員

木村 和久	津軽森林管理署長
福長 善宏	津軽森林管理署森林技術指導官



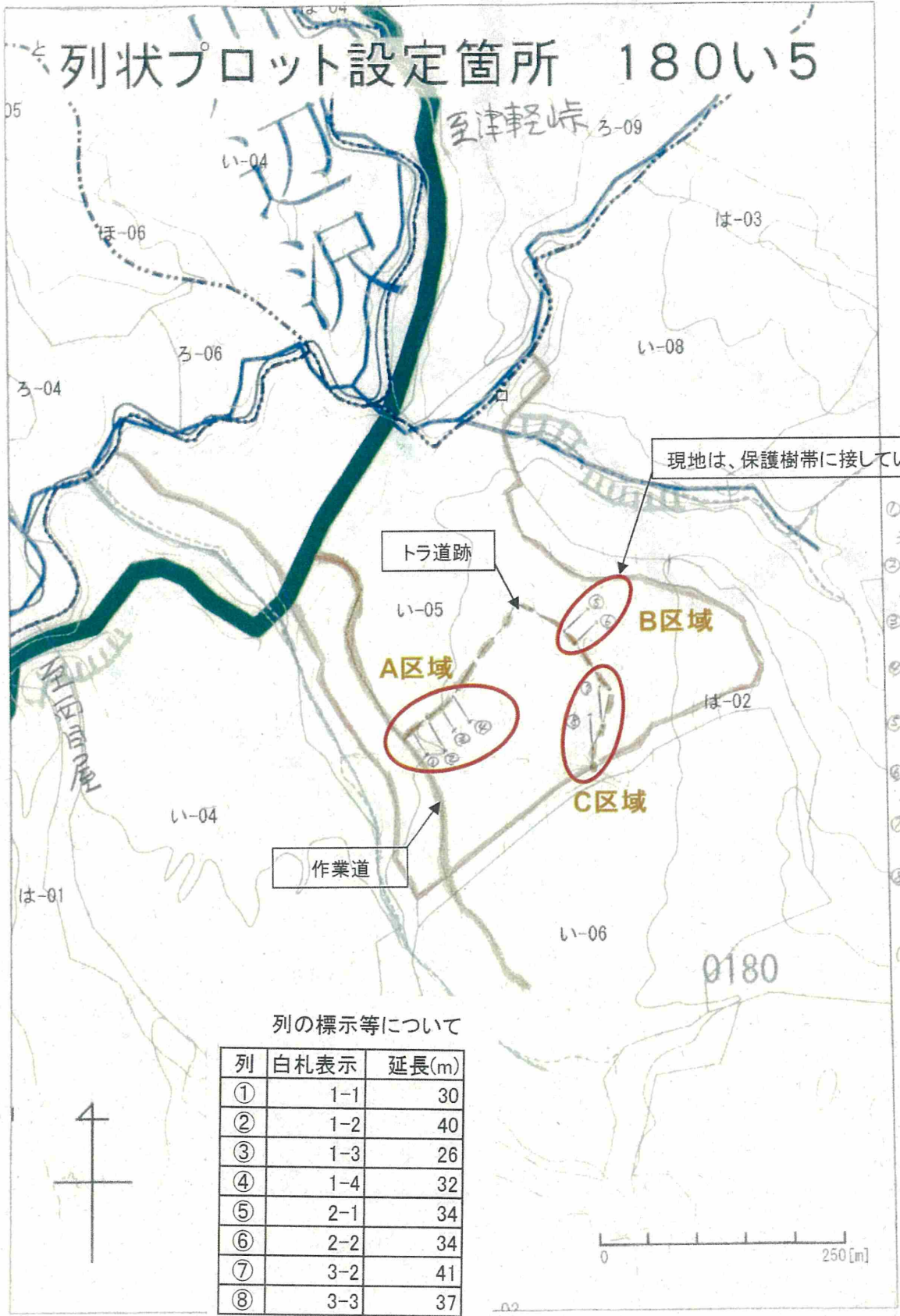
列状プロット設定箇所 180い5



- ① 1-1
30m
- ② 1-2
40m
- ③ 1-3
26m
- ④ 1-4
32m
- ⑤ 2-1
34m
- ⑥ 2-2
34m
- ⑦ 3-2
41m
- ⑧ 3-3
37m
- (3-1)
26m

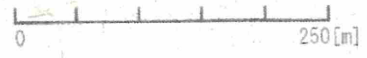
1:5,000

0 250[m]



列の標示等について

列	白札表示	延長(m)
①	1-1	30
②	1-2	40
③	1-3	26
④	1-4	32
⑤	2-1	34
⑥	2-2	34
⑦	3-2	41
⑧	3-3	37



* 3-1は欠番

平成28年7月28日
津軽白神森林生態系保全センター

自然再生活動拠点における伐採後の広葉樹侵入等について

西目屋村鬼川辺国有林180い5林小班の自然再生活動拠点では、林地を列状に間伐し、その後の植生の生育状況などを調査することとし、次の3種類の調査箇所を設定。

- A 搬出路に対して直角の伐採列
- B 広葉樹の区域ぎりぎりまでの伐採列
- C 日照を考慮して南北に設置した伐採列

これらの箇所に設定した植生プロットにおいて、広葉樹の発生状況を確認しつつ、より効率的な自然再生の取り組みができないか検討したい。

案としては、

- Bの伐採列は広葉樹の区域から種子の飛来が期待でき、また、Cの伐採列は日照による稚樹の発生が期待できるが、Aの伐採列は広葉樹の区域からやや距離があるうえ枝条等が林内に堆積している状況。
 - ① Aの伐採列では枝条等が堆積しており種子が着床しにくいと考えられることから、ボランティアなどを募り、トビによる残材の除去を行うとともに地表面を熊手で掻き起して稚樹の発生を促す。
 - ② Aの伐採列では種子の飛来が難しいと考えられることから、ボランティアなどを募り、広葉樹侵入補助作業として隣接する天然林等から苗木を採取して植込みを実施。
 - ③ Aの伐採列では枝条等が堆積しており種子が着床しにくいと考えられることから、ボランティアなどを募り、カミネッコンを活用し堆積枝条を除去せず採取した苗木の植栽を実施。
※平成28年度第一回自然再生活動で当該調査箇所外において実施
- 当該プロット調査を行って行く中、来年度以降は雑草の繁茂が顕著になるものと想定。
 - ④ BやCの伐採列において広葉樹の侵入が確認された場合、ボランティアなどを募り、自然再生活動として刈出し等の保育行為を実施。
- ボランティア団体等による自然再生の取り組みにおいて、カミネッコン活用への協力やモニタリング調査用センサーカメラの貸し出しも可能。
 - ⑤津軽白神森林生態系保全センターへ相談。



伐採前③



伐採前①



伐採後③



伐採後①